

シネマ

シネラ・ニュース
October.2000 No.51

特集

李行監督と台湾映画

特別企画

ぴあフィルムフェスティバルin福岡

特別企画

第8回

福岡映像コンテスト

特別企画

揺れるジェンダー／ 揺らぐセクシャリティ



アヒルは、鳥の中でも愛らしくて憎めない存在。
そんなアヒルたちに囲まれて暮らすのも素敵だと思う。
『あひるを飼う家』 イラスト&文:山下良平

10

6日(金)

招待作品 13:30
ホールド・ユー・タイト
 1997年/35ミリ/カラー/93分/香港
 監督/スタンリー・クワン
 国際的評価の高いスタンリー・クワン監督が、中国返還間近の香港を舞台に描く、優く切ない物語。突然死んだ1人の男を愛したその妻と若い男。孤独が2人を近づける。

PFFアワード2000 16:20
花ガール/FLOWERGIRL
 1999年/16ミリ/カラー/19分
 監督/ケイト・ショートランド
 タイスク、テツ、ハナの3人は、オーストラリアのシドニーで自由気ままに暮らしていた。タイスクはハナに心を寄せるが、日本に帰ることになる。

ムカデロデオ
 1999年/16ミリ/カラー/32分
 監督/脚本/有馬頼、市川啓嗣
 かつて自分の恋人だった花嫁の強奪を計画する男。乾いたタッチとスタイリッシュな映像、洒落たセリフでかっこいいに笑える作品。

青〜chong〜
 1999年/16ミリ/カラー/54分
 監督/脚本/李相日
 在日朝鮮人学校に通う在日3世のヤン・テソン。テソンはいつも朝鮮人として誇り高く生きるよう教えられてきたが、姉が日本人と結婚したいと言ってくる。グランプリ・企画賞・エンターテインメント賞・音楽賞受賞。

招待作品 19:00
遊楼羅の夢(かるらのゆめ)
 1994年/35ミリ/カラー/62分
 監督/瀬々敬久
 九州出身ながらほとんど福岡で紹介されなかった瀬々監督の特集。ある犯罪者の終わりなき「業」の世界を描き、海外で絶賛された傑作。脚本に青山真治が参加。(18歳未満の方はご入場できません。)

アナーキー・イン・じゃぱんすけ
 1999年/35ミリ/カラー/68分
 監督/瀬々敬久
 81年のパンクブーム、89年のバブル全盛。そして世紀末へ、時代の失速の中で、己の欲望のみを生き抜くダメな不良中年たちの狂騒を描いた過激で複雑な群像劇。(18歳未満の方はご入場できません。)



青〜chong〜



ジャイアントナキムシ



MY beautiful EGO



ムカデロデオ

7日(土)

PFFアワード2000 11:00
OVERTONE
 1999年/16ミリ/カラー/28分
 監督/嘉悦基光
 一緒に暮らしたばかりでわずか1ヶ月で最愛の女性を失った若い芸術家。彼は彼女の像を作り始める。ドラマチックなラブストーリー。技術賞受賞。

電車の往く町で
 1999年/8ミリ/カラー/79分
 監督/脚本/撮影/編集/宮下耕治
 中学時代に引越していった正秋が、突然街に帰ってきてから夏は落ち着かない。穏やかなの中に描かれる珠玉の青春ノスタルジア。

招待作品 13:30
アナベル・チョンのこと
 1999年/35ミリ/カラー/86分/アメリカ・カナダ
 監督/ガフ・ルイス
 シンガポールを飛び出しアメリカで生きることを選んだ女子学生が、ボル・ビデオの世界に飛び込む。世界各国の映画祭で衝撃を呼んだアナベルの物語。

招待作品 16:20
ボブ・フラナガンと死
 1997年/35ミリ/カラー/90分/アメリカ
 監督/キルビー・ディック
 死の病に冒されたアーティスト、ボブ・フラナガンの2年間を追った作品。ボブと彼のパートナーである写真家のシェリー・ローズの究極の愛が豊に描かれた傑作。

特別企画

日本最大の自主製作映画のコンペティションである「びあフィルムフェスティバル」。東京で開催されたフェスティバルからコンペティション入選作品及び話題の新作を上映。

びあフィルムフェスティバル

8日(日)

PFFアワード2000 11:00
春天里
 1999年/S-VHS/カラー/26分
 監督/脚本/友久陽志
 北京に留学中のヨウはタクシーに財布を忘れてしまう。しかしトモミという日本人留学生がヨウの財布を見つける。水墨画のような味わいのラブストーリー。

MY beautiful EGO
 1999年/DV/カラー/40分
 監督/脚本/編集/清水佐絵
 身の回りの「美しいものがま」だけを撮った半分ドキュメンタリーの物語。審査員特別賞受賞。

ヒコキキ
 1999年/8ミリ/カラー/40分
 監督/脚本/編集/花見正樹
 高校の陸上部に所属する深海は、実力はあるが不良部員の清田と架場にあこがれている。せつない恋とさわやかな感動を呼ぶ青春ドラマ。

PFFアワード2000 13:30
ワタシハコトバズガスクナイ
 1999年/DV/カラー/23分
 監督/脚本/上田大樹
 アルバイトをクビになり、留年し、恋人からふられた23才のミワは、夏休みに故郷で弟と、弟の友人と過ごす。準グランプリ受賞。

ブルームーンカフェ
 1999年/βカム/カラー/25分
 監督/脚本/神酒大亮
 ひとりの男と2人の女の密室劇。浮気の最中に彼女が帰宅し、彼は浮気相手をベッドの下に隠すが...

わらってあげる
 1999年/16ミリ/カラー/48分
 監督/小沢和史
 3年前に手首を切って自殺未遂をはかった友人を監督が訪ね、撮影した数日間のドキュメンタリー。詩的な作品。

PFFアワード2000 16:20
鈍色ノ雨ガ降ッテクルツ
 1999年/DV/カラー/45分
 監督/脚本/撮影/編集/音楽/鳥居洋太
 鈍色とは濃いネズミ色のことで、現代社会の肥大化する不安とストレスを象徴する。今の日本の気分を鮮烈なイメージで映像化。

アングロ
 1999年/DV/カラー/74分
 監督/脚本/古本恭一
 タクシー運転手の主人公は、交通事故で2人の娘を失い、妻も失明してしまう。落ち着いた語り口で描かれる感動の人間ドラマ。審査員特別賞受賞。

主催: びあフィルムフェスティバル in 福岡実行委員会
 福岡市総合図書館 PFFパートナーズ
 協力: 国映、シティ情報ふくおか、ボニーキャニオン
 会期: 10月6日(金)~10月9日(月・祝)
 観覧料: 1,000円(当日1回券) 800円(前売り1回券) 3,500円(5回券・前売りのみ・限定100枚)
 ※定員制、各回入替制。
 ※高齢者割引・障害者割引はありません。
 ※前売り券はチケットぴあ(TEL:092-708-9999)にて発売。

9日(月・祝)

PFFアワード2000 11:00
夜の話
 1999年/VHS/カラー/5分
 監督/脚本/吉野耕平
 不思議な機械を宙に向ける白衣の2人組がいた。2人は「夜」を計測し、「夜のエキス」を瓶詰めしていた。不思議なショートストーリー。審査員特別賞受賞。

おかえりなさい、まんちゃん
 1999年/DV/カラー/49分
 監督/脚本/河本隆志
 彼女は恋人の突然の死を認められない。メッセージはペットボトルに入れられ川に流される。そして天使によって届けられる。

ジャイアントナキムシ
 1999年/16ミリ/カラー/55分
 監督/脚本/編集/深川栄洋
 内装職人の谷口は、友人の青田の家にいくと美人の恋人仲子を紹介される。性的コンプレックスを持つ3人の、セックスレスで奇妙な三角関係の物語。

PFFアワード2000 13:30
KILLER, ADIOS!
 1999年/VHS/カラー/14分
 製作/監督/脚本/モデルプロップ作成/撮影/照明/編集/セリフ/日出嶋竜二

バイクにまたがり、ショットガンをぶっ放し獲物を仕留める、殺し屋ガンマンを主人公とした、ストップモーションアニメーションによるウエスタン。

9
 1999年/DV/カラー/115分
 監督/脚本/編集/久保延明
 一つの物語が途中で枝分かれして3つに別れ、さらにそれが3つに別れ、9つの物語が展開する映画。人生の分かれ道をユーモラスに見せていく、観客賞・プリリANT賞受賞。

PFFアワード2000 16:20
世界に告ぐ
 1999年/S-VHS/カラー/65分
 監督/脚本/餘家守
 世界という名前を持つ大学生。彼の冴えない不器用な日常、友人達への思い等、大人への成長の過程で抱く自意識の揺れを巧みな話法で描いた作品。

青〜chong〜
 1999年/16ミリ/カラー/54分
 監督/脚本/李相日
 在日朝鮮人学校に通う在日3世のヤン・テソン。テソンはいつも朝鮮人として誇り高く生きるよう教えられてきたが、姉が日本人と結婚したいと言ってくる。グランプリ・企画賞・エンターテインメント賞・音楽賞受賞。

特別企画 第8回 福岡映像コンテスト

福岡市総合図書館では、映像文化の振興を図る目的で、映像に親しむ人々のためのイベントとして、毎年6月には実験映画の祭典「イメージフォーラム・フェスティバル」を、10月には自主製作映画のコンペティション「びあフィルム・フェスティバル」と「福岡映像コンテスト」を実施しています。前者の2イベントが全国規模の上映で、刺激的な画像や難解な作品が多い、どちらかと言えばプロを目指すイベントであるのに対し、この「福岡映像コンテスト」は福岡映像協会が主催するアマチュ

アによるビデオ作品のコンテストです。応募者は、福岡市とその近郊のアマチュア映像作家や趣味として映像を楽しんでいる方が多く、映像制作のキャリアも大変幅広く、オーソドックスな画像や趣を大切に作品が集まる傾向があります。優秀作品には「福岡市長賞」他の賞が贈られます。
 ビデオ制作に自然な感覚でチャレンジするのに最良の場であり、是非この機会に各作品をご鑑賞いただき、今回はあなたの作品を応募してみられませんか。

開催日: 10月22日(日)
 表彰式: 午前10時~12時
 発表上映会: 午後1時~4時30分
 観覧料: 無料
 場所: 福岡市総合図書館
 映像ホール・シネラ
 主催: 福岡映像協会事務局
 Tel 092-751-4397
 協賛: 福岡市民芸術祭

特集

李行監督と台湾映画

会 期：10月12日(木)～21日(土)
※休館日・休映日を除く
観覧料：500円(大人)
400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)
※定員制・各回入替制。
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

台湾映画は、ホウ・シャオシェン監督に代表される台湾ニューウェーブ以前の作品はこれまであまり知られていなかった。実際には60年代を中心に台湾語映画の大ブームの時期があり、大衆的レベルで映画が市民生活に浸透していった。同時に製作本数は少ないが国民党の進める「北京語」運動による映画、「国語映画」も製作されている。この時期活躍した監督達がキン・フーであり、リー・ハンシャンであり、リー・シンであった。すでに国際的に知られているキン・フーと違い、リー・シン監督は、大衆映画の監督であったために、その評価はかなり遅れてしまったと言っている。

リー・シン監督は48年に上海から台湾に移住し、56年に映画界入りしている。58年に台湾語の映画でデビューし、「我らの隣人」以後は北京語映画を監督、60年代～70年代を代表する巨匠として活躍している。当時国民党の推進する、台湾の経済振興を具現化した映画が「健康写真主義」といわれるものであり、健康に働くことで未来に希望を見出す主人公達が描かれている。もちろん現実とはそれほど明るいものではなかったが、リー・シン監督の映画は単なる国策映画の枠を越え、大衆的な人気を博している。ホウ・シャオシェン監督の「恋恋風塵」の中で、広場で上映される映画がリー・シン監督の「あひるを飼う家」であること、また台湾ニューウェーブの代表作「坊やの心」で、サンドイッチマンが宣伝する映画がやはりリー・シン監督による「海辺の女たち」であることなど見ると、いかにリー・シン監督の作品が身近なものであり、同時にその後の台湾ニューウェーブの監督達に影響を与えているかが理解できる。

15日 あひるを飼う家

Beautiful Duckling

15:10
20金
14:00

本作はリー・シン監督の代表作として高く評価されており、60年代の健康写真主義を代表する作品でもある。あひるの飼育で生計を立てるリン家の父親と美しい娘シャオユエの物語が、当時の農業改善と増産政策を背景として描かれる。

日本語字幕付き

1965年/35ミリ/カラー/111分/台湾

監督/李行
出演/唐寶雲(タン・パオユン)



12日 原郷人

My Native Land

19:00
14金
15:00

台湾を代表する郷土作家・鍾理和(チョン・リーホー)の生涯を描いた伝記映画。鍾理和は生前は無名であったが、後に評価され、この映画は彼の没後20年を契機に製作されたものである。台湾の映画評論家協会による80年のベストワンに選出されており、テレサ・テンの歌う主題歌もヒットした。

日本語・英語字幕付き

1980年/35ミリ/カラー/112分/台湾

監督/李行
出演/秦漢(チン・ハン)



12日 我らの隣人

Our Neighbor

14:00
14金
11:00

リー・シン監督初の北京語映画。朝鮮戦争頃の台北の街の片隅で、肩寄せ合って生きる庶民の姿が描かれる。当時多くの中国人が大陸から渡ってきており、そういった移民達が一つの家族のように捉えられている。上海生まれの外省人であるリー・シン監督の心のこもった作品。

日本語字幕付き

1963年/35ミリ/モノクロ/92分/台湾

監督/李行
出演/李冠章(リー・カンジャン)



15日 路

The Road

11:00
20金
19:00

妻を早くに亡くし、道路工事で生計を立てながら息子を育てる郭と息子の物語。日本の建設省にあたる公路局の協力を得て製作されており、道路工事にそれに従事する労働者を賛美する一種の国策映画である。しかし清貧な親子の下町情緒溢れる作品である。

日本語字幕付き

1967年/35ミリ/カラー/96分/台湾

監督/李行
出演/王戎(ワン・ロン)



13日 君を送る心綿々

19:00
19金
14:00

台湾の日本統治時代から戦後までを舞台とした台湾語によるメロドラマ。小学校教師のケイリンと恋人のビリンが、日本軍の迫害や戦争、終戦などの混乱を経て戦後に再会するまでを描いている。50年代～60年代に流行した台湾語映画の秀作。

日本語字幕付き

1965年/35ミリ/モノクロ/100分/台湾

監督/梁哲夫(リャン・チェーフー)
出演/陳揚(チェン・ヤン)



13日 梅花

Victory

14:00
18金
19:00

太平洋戦争時代の台湾、日本軍の支配に抵抗する林家の家族を描いた作品。70年代の台湾では日中戦争を題材とした映画が数多く作られている。本作は民族意識の高揚と相まって76年観客動員ベストワンとなり、劇中で歌われる主題歌「梅花」も大ヒットした。

日本語字幕付き

1975年/35ミリ/カラー/90分/台湾

監督/劉家昌(リウ・ジャーチャン)
出演/柯俊雄(クー・チュンション)



18日 老年萬歳

Warmth of the Old House

14:00
21金
15:00

台湾東部の花蓮にある老人ホームを舞台にした作品。登場する老人達に個性豊かな配役をし、老後の悲喜こももこを明るく描いた人情喜劇である。老人への敬意と愛情がほのほとした語り口の中に込められている。

日本語・英語字幕付き

1984年/35ミリ/カラー/108分/台湾

監督/張佩成(チャン・ペイチェン)
出演/葛香亭(ゲ・シャンチン)



19日 天下第一

All the King's Men

19:00
21金
11:00

60年代～70年代の台湾映画を代表するキン・フー監督作品で、「多桑」のウー・ニエンチェン監督が脚本に、また「バナナパラダイス」のワン・トン監督が美術に参加している。物語は10世紀、後周の皇帝の持病を治すため天下第一の医者を探すというもので、奇妙なおもしろさに溢れた作品。

日本語字幕付き

1983年/35ミリ/カラー/101分/台湾

監督/胡金銓(キン・フー)
出演/田豊(ティエン・ファン)



15日(日)13:30～15:00
※開場は開演の30分前。入場は有料制で、当日の「あひるを飼う家」の観覧料に含まれます。

特別講演

「李行監督と60年代台湾映画」

チャン・ヤン
映画評論家

てるおか そうぞう
映画評論家

張昌彦

1941年台北市生まれ。中国文化大学演劇科卒業。早稲田大学文学研究所にて映画を研究する。中国文化大学映像演劇科及び国立台湾芸術学院映画科などで教鞭をとる。また、現在フリーの評論家として、台湾ドキュメンタリー映画祭の実行委員等で活躍している。

暉峻創三

1961年東京生まれ。80年代から「キネマ旬報」「Switch」「FLIX」等でアジア映画を中心に評論活動を展開。その他東京都立大学、明治学院大学などで映画論を講じる。著書に「チャイニーズパラダイス」(ビクターブックス)(ASIAN WAVE 香港電影世界(メタローク)等がある。

「アジアフォーカス・福岡映画祭」も今年で10回目。第1回から94年まではプレスカード所持者として、95年からはスタッフとしてこの映画祭に参加している身だが、オフィシャルな話題は期間中に会場で販売される記念パンフレットに譲り、やや個人的なこと、特に95年以降の映画祭ゲストにまつわる出来事を記してみたい。

95年は「月夜の願い」のトニー・レオンのドタキャン事件に尽きるだろう。直前のベネチア映画祭で主演作「シクロ」の授賞が決まって来福が白紙に。だが過熱しているファンの中には福岡空港にプレゼントを持って張り込んでいる人もいた。さすがにピーター・チャン監督、リー・チー・ガイ監督しか姿を見せなかった時には、心細かっただろう。こちらファンの方たちに事情を説明し、「よければ、そのプレゼントを監督たちへ」とお願いした。2人の監督は事情も知らず大喜び。彼らがのちに「ラヴソング」に「世界の涯てに」、「不夜城」とそれぞれ活躍を遂げるとは、その方たちも夢にも思わなかっただろう。

ゲストが来る来ないということは、本当に最後までわからない。予定の便に乗っていないとするとショック。ワールドワイドな待ちぼうけである。それにその後のスケジュールも狂ってしまう。99年、「歳月」のベトナム若手女優ホン・アインは新作の撮影が多忙で、出発の前日に日本入国ビザを申請という状態。当然予定の便には乗っていないかった。

本人は到着しても、スーツケースが行方不明という、お気の毒な場合もある。レセプション・パーティーや舞台挨拶で着るつもりだった服が着られないことも。台湾のホー・ピン監督のように、スーツケースの鍵が見あたらないというようなこともあった。

スクリーン上で既に「お知り合い」になっている俳優ならびに面識のある監督は別として、空港で初対面する場合はドキドキの連続である。手持ち

写真どおりの人が現れれば、「ウェルカム・トゥ・フクオカ」でうまくいくが、ある女性監督の場合は、化粧もなくジャージ姿だったため目の前を通り過ぎてしまった！

初対面で強烈だったのは、モンゴルの愛すべき「ニャムガワー」監督。95年の初来福の時は空港で姿を現さず、ああ乗っていないのかと思いきや、言葉が通じず入国でトラブルっており、係員から呼び出されてしまった。彼の頭は写真と違ってツルツルに剃り上げられていて、おまけに機嫌も悪くただただ怖かった。しかし98年の時は女優である奥様も同伴で、打ち解けることができた。ただ、やっかいな相談を持ち掛けられてしまう。エルガーホール・の可動式の客席が気に入り、椅子のメーカーに会いたいというのだ。出張中のその担当者何となくつかまり、世界的にも高い技術であることを説明いただいた。演劇もやっているニャムガワー監督は、説明の一言一言に興味津々だったが、最後の「中古の椅子を譲って欲しい」には、こちらもずっこけてしまった。

また、監督が上映に立ち会うということは、ある意味で緊張である。最高の状態での上映を望まれるからだ。中国のチアン・ウェン監督は、音のレベルに納得がいくまで何度も映写室に足を運んだ。売れっ子監督の場合は多忙なスケジュールを送ることも多い。イランのマジド・マジディ監督は、99年は前作の一般公開と時期が重なり、多くの取材もこなした。そのため同伴の長男・モフセン少年は退屈で、我が家で福岡タワー、マリンワールドなどへと案内した。わが娘にも貴重な経験となったようだ。モフセン君とは、毎年テヘランで会い、その成長ぶりに驚かされている。

これまで、数百人ものアジアの映画人たちと出会ったことになるが、その人数分は優に思い出がある。

福岡映画祭事務局 坂本学



マジド・マジディ監督のご子息
(福岡タワーにて)

INFORMATION お知らせ

各団体の自主上映

●10月1日(日) 11:00/14:00
「不信のとき」(監督:今井正)
観覧料/前売:1,000円、当日:1,500円
主催/W.L.C福岡
(Tel. 092-741-7687 瓜生史郎)

●10月29日(日) 11:00/14:00
「女の勲章」(監督:吉村公三郎)
観覧料/前売:1,000円、当日:1,500円
主催/W.L.C福岡
(Tel. 092-741-7687 瓜生史郎)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成12年11月号〜平成13年3月号までの郵便切手(90円×5月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。
宛先:〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄、デジタルビデオの編集は不可)
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

次号予告

※変更の場合もあります。あらかじめご了承ください。

11/1(水)~12(日)

戦争を描く

第二次世界大戦をテーマとした作品群

「あの旗を撃て」「五人の斥候兵」「真空地帯」
「ビルマの堅琴」「肉弾」「桃太郎海軍の神兵」
「ハルバ河の英雄的な頁」「上海」「南京」「北京」
「戦う兵隊」「日本の悲劇」

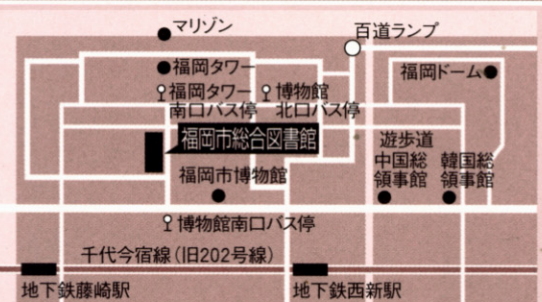
11/15(水)~26(日)

90年代の中国映画

中国映画第6世代の監督たちを中心に注目の90年代作品群
「北京好日」「太陽の少年」「麻花売りの女」
「香魂女」湖に生きる」「正義の行方」「新北京物語」
「硯(すずり)」

1日	自主上映「不信のとき」		
2月	休館日		
3火	休映日		
5木	休映日		
6金	13:30 ホルド・ユー・タイト	16:20 花ガール 他	19:00 迦楼羅の夢 他
7土	11:00 OVERTONE 他	13:30 アナベル・チョンのこと	16:20 ボブ・フラナガンと主と死
8日	11:00 春天里 他	13:30 ワタシはロバ(カズノコ) 他	16:20 鏡色/雨ガ降ッテクルッ 他
9月	11:00 夜の話 他	13:30 KILLER, ADIOS! 他	16:20 世界に告ぐ 他
10火	休館日		
11水	休映日		
12木	14:00 我らの隣人	19:00 原郷人	
13金	14:00 梅花	19:00 君を送る心綿々	
14土	11:00 我らの隣人	15:00 原郷人	
15日	11:00 路	13:30 講演会	15:10 あひるを飼う家
16月	休館日		
17火	休映日		
18水	14:00 老年萬歳	19:00 梅花	
19木	14:00 君を送る心綿々	19:00 天下第一	
20金	14:00 あひるを飼う家	19:00 路	
21土	11:00 天下第一	15:00 老年萬歳	
22日	第8回福岡映像コンテスト		
23月	休館日		
24火	14:00 トータル・ファクト・アップ	16:30 狂気を語る女たち	19:00 心の中
25水	14:00 戦士の刻印 他	16:30 ラブ・オブ・スピード 他	19:00 狂気を語る女たち
26木	14:00 トータル・ファクト・アップ	16:30 天使の楽園 他	19:00 We are trance gender
27金	14:00 心の中	16:30 トータル・ファクト・アップ	19:00 天使の楽園 他
28土	11:00 We are trance gender	13:30 戦士の刻印 他	16:30 ラブ・オブ・スピード 他
29日	自主上映「女の勲章」		
30月	休館日		
31火	月末休館日		

※揺れるジェンダー/揺らくセクシャリティの上映作品中、「天使の楽園」他はR-18、その他はR-15の入場制限がありますのでご注意ください。また上映作品が変更になる場合もありますのであらかじめご了承ください。(詳細は映像資料課へ確認ください。)



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス: 天神〜都市高速経由〜福岡タワー南口

(所要時間 昼間約20分)

博多駅〜都市高速経由〜福岡タワー南口

(所要時間 昼間約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10〜15分間隔で運行されていますので大変便利です。

お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑誌

図書館は読書の秋だったから、秋は書をひもとくのに一番ぴったりの季節だった。枯れ葉舞い散る公園、心地よい秋の夜長、etc...。ところで映画にぴったりくる季節はいつだろう。映画の日12月1日、映画興行界も大きな宣伝を打つのは新春第1弾のお正月。では、映画は冬がお似合い? とすると、季節はまもなく映画の季節...。百道浜の北風に負けないようシネラを頑張るぞ。(H.M.)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表) 092(852)0600 映像資料課 092(852)0608 Fax. 092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>